

活動レポート

道南技術士会

文責：道南技術士会 森下裕一（建設部門；道路）

特別講演会『「国土強靱化」って何？』発表に向けて～道南の夢を語る 道南技術士会新年技術発表会

1. はじめに

2013年3月6日(水)、函館測量設計業協会の主催、日本技術士会北海道本部道南技術士会の共催により、特別講演会『「国土強靱化」って何？』を企画し、講師として内閣官房参与・京都大学大学院工学研究科の藤井聡先生を招聘することとなった。



特別講演会のチラシ

これを契機とし、北海道道南地域においても、地域の技術者が集まり、自ら地域のビジョンを創出することが必要と考えた。そこで、道南技術士会では、当日の講演会において先生の講演に先立ち、地域の

現状と方向性を整理したプレゼン発表を行いたいと考え、そのための準備として、道南技術士会のメンバーによる議論を行いたいと考えた。

2013年2月1日(金)の新年会では、技術発表会と題して、この問題について考えることとし、私は、そのための準備資料を用意し、当日の議論の場に提供した。

2. 技術発表会

(1) 議論のテーマについて

技術発表会においては、まず、上記背景をメンバーと共有することから議論をはじめた。

まず重要な観点として、「国土強靱化」には2つの側面があり、1つには震災復興はもとより、これから先起こりうる様々なリスクに対して国全体が一丸となって取り組まなければならないという側面、それから、公共投資を通じて、雇用の回復、経済の再生が図られるという明るい展望を示すという側面である。

まさしく、3月6日の特別講演会においては、主催・共催の外に、29団体の後援をいただいております。建設業だけでなく、農業・漁業関係者も集う会合となっていることから、社会資本整備の必要性について、一方的な押しつけではなく、「皆が豊かになる」ロジックを一緒に考えるというスタンスを伝えることがまず大事であると認識された。

こうしたことを踏まえると、現在、道南地域においては道路・港湾等の社会資本整備の事業が進められており、また新幹線開業に向けた地域の期待やそれを後押しする地域プロジェクトの企画・検討なども進められているが、まず現状認識と課題の共有という議論の出発点に力点をおきたいと考えた。

(2) 北海道道南エリアの強靱化について

① 北海道道南エリアの課題

北海道道南地域は、函館市を中核都市とし、2市16町からなる圏域である。圏域として見ると、国勢調査人口は昭和55年以来減少に転じており、平成2年には55万人だったが、平成22年には47万人に減少している。全道における人口シェアも10%以下となっている。

こうした人口減少下において、地方部においては限界集落の発生が問題となっており、小中学校の統廃合とともに、児童・生徒の通学の足を確保することが地域の課題となっている。また特に全域が積雪寒冷地である当地域では、商店街が衰退してシャッター街となることで、地域住民による除排雪などが行き届かなくなるなどの問題も発生している。

こうした地域の活力低下はさらなる人口流出を招く恐れがあることから、地場産業の存続のための担い手の確保、そのための地域として最低限の生活環境の維持・存続は絶対的な命題である。

② 全国から見た北海道道南エリアの位置づけ

社会資本整備の意義は、国土の活力を保持することにあり、地域の衰退に歯止めをかけるという側面と同時に、いかにこの地域が全国に貢献するかという側面も忘れてはならず、そのため、全国から見た当地域の位置づけを再考することが重要である。

現在、北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産の登録に向けて準備を進めているところであるが、共通の様式を持った円筒土器文化圏の存在は、縄文時代から津軽海峡を挟んだ活発な交易・交流があったことを裏付けており、また、高田屋嘉兵衛の活躍からペリー来函・開港に至る歴史的経緯を振り返ってみても、当地域はそれぞれの時代におけるグローバルな交流の中で栄えた地域である。

こうした歴史的経緯を踏まえつつ、現在の当地域を見ると、函館は道内のみならず、道外・国外からの観光客が集い賑わう観光地となっており、また生活環境としても、魅力的な都市 No.1 を競う都市となっている。こうした強みを活かし、地域の魅力を磨き上げ、全国に向けた発信力を高めていくことが経済活性化の点から見ても重要である。

(3) 今後の社会資本整備等の取り組み

① 産業の活性化

道南地域の産業活性化のためには、こうしたブランド力の高さを活かしつつ、豊富な食資源の活用などを図っていくことが求められる。

ブランド力をどのように定義し、またこれを高めていくかについて議論した。

1 つには、消費者に対して他の商品との差別化を図り、またそれをアピールすること。農水産品については、鮮度の保持と高付加価値化が重要であり、物流の効率化・迅速化を図ると同時に、甘味成分の分析など、鮮度保持によって得られるメリットを消費者にわかりやすく、定量的に評価することが大事である。またもう1 つには、そうした差別化を図った製品に対して、認証制度を設けるなど、地域としてその価値を堅守することが重要である。

② 移動・輸送の迅速性確実性の確保

2015 年度に新幹線開業を控える道南地域では、競争力強化のために、改めてヒトの移動、モノの輸送の迅速性・確実性を考えることが重要である。

現在当地域では、新幹線開業に向けた二次交通の充実を図るため、交通事業者等の協議が進められているが、ブランド力のある函館観光を起爆剤として、道南地域全体に波及効果をもたらすためにも、アクセス面の充実が急務であり、高速交通ネットワークの整備を進めると共に、塩害による老朽化の進行が顕著な沿岸部の国道の補修など、必要な対策を講じていく必要がある。

インバウンド観光においては、函館観光の場合、開港の歴史と関連し、欧米の旅行者に見せる工夫を講じると良いのではという指摘もあった。また、産業振興のため、欧米の企業体の誘致なども夢のある話として検討しても良いのではという意見があった。

また、モノを運ぶ機能としては、荒天時にも欠航が少ない青函航路の優位性を活かすため、地域において物流拠点機能を高めていくことが有用である。

(4) まとめ

こうした議論を踏まえ、当日は布村代表幹事による発表がなされた。今後とも地域における議論を発見にし、道南地域の発展に寄与したい。